

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数644件、前月比10.1、前年同月比3.4と急増しています。菊池(報告数112、定点あたり14.0)、熊本(報告数276、定点あたり11.0)、有明(報告数81、定点あたり10.1)が多いようです。12月にまとまった報告が出て、これからの発生も増加が予想されますので例年以上に注意が必要と考えられます。年齢的には年長児から年長者に多いようです。

小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向) 報告総数6038件(前月比1.5、前年比1.0)でした。前月比で増加したその多くは、インフルエンザ(前月比10.1)と考えられます。その他に増加の目立つものは、感染性胃腸炎(前月比1.5)、A群溶レン菌咽頭炎(前月比1.5)と咽頭結膜熱(前月比1.3)です。前二者は季節性の高い疾患ですが、咽頭結膜熱は、10月に一旦減少後も再び増加しています。昨年も似たような動向を呈していますが、今年度の方が報告数は多い様です。他の疾患では特異な動きは少ないようです。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告数250件(前月比1.0、前年比1.2)と例年と同様の経過です。水俣38件(19.0)、菊池74件(14.8)に多いようです。県内7カ所から二桁の報告がある一方で、報告のない地区が2カ所ありました。0歳～1歳を中心としています。2歳～4歳の報告もあります。

※()書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

2. 咽頭結膜熱: 報告数288件(前月比1.3、前年比2.0)です。昨年と同様に9月をピークとし10月に一旦減少し再び増加に転じていますが、今年の報告数は夏以降も昨年を上回っています。ここ2年は必ずしも夏の疾患とは言えない推移を呈しています。菊池(報告数156件・定点あたり31.2)が突出しています。年齢も2歳を中心として、小児から幅広い報告があります。

3. A群溶連菌咽頭炎: 報告数590件(前月比1.5、前年比2.1)です。推移は例年同様ですが、8月以降の報告数は、ここ3年では最も多い状況です。菊池184件(36.8)、宇城67件(16.8)、熊本241件(15.1)に特に多いようですが、山鹿を除き県下から報告があります。6歳を中心とし、3～8歳から広く報告があります。

4. 感染性胃腸炎: 報告数3279件(前月比1.5、前年比0.8)と例年並みの推移です。ほとんどの地区で三桁の報告、少ない地区でも二桁の報告があります。菊池693件(138.6)、山鹿241件(120.5)、八代427件(106.8)、有明514件(102.8)が多いようです。全年齢から多くの報告があります。

5. 水痘: 報告数406件(前月比1.4、前年比1.0)と、推移・報告数ともに例年並に推移しています。菊池148件(29.6)、山鹿29件(14.5)、人吉43件(14.3)、天草36件(9.0)、からの報告が多いようです。地域に偏った流行傾向は続いているようで、予防可能な疾患であることを考慮すれば、地域別対策の検討が必要でしょう。

6. 手足口病: 報告数216件(前月比1.0、前年比1.4)と、発生数の推移は例年と同様です。秋以降も三桁の報告数が続いています。人吉35件(11.7)、菊池42件(8.4)に多いようです。

7. 伝染性紅斑: 報告数8件(前月比1. 1、前年比8. 0)です。平成25年は、ほとんど流行はありませんでした。熊本6件、山鹿・有明から1件ずつ報告されています。
8. 突発性発疹症: 報告数129件(前月比0. 9、前年比0. 8)と、例年同様の推移です。
9. 百日咳: 報告はありませんでした。
10. ヘルパンギーナ: 報告数19件(前月比1. 6、前年比0. 9)で、例年同様の推移です。天草10件(2. 5)、菊池6件(1. 2)、熊本3件(0. 2)のみの報告です。
11. 流行性耳下腺炎: 報告数6件(前月比0. 7、前年比0. 1)と、流行は認められないようです。菊池3件(0. 6)、熊本3件(0. 2)のみの報告です。年齢は、3歳2件、4歳2件、6歳と7歳1件です。予防可能な疾患であり再度積極的対策の早急な実施が必要と考えられます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎: 報告数1件(前月比一、前年同月一) 熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎: 報告数74件(前月比1. 2、前年同月1. 2)と増加しています。地域別では熊本71件、菊池3件の報告です。年齢別では20～49歳台に50%と多発していますが、1～4歳台も先月より増加しており注意が必要です。平成26年1月に入ってから患者数が増加していますので、今後の流行が懸念されます。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症: 報告数 55件(前月比 1. 1、前年同月比 2. 1)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、女性が40件と圧倒的に多く見られています。年齢別は、女性は20～24歳に10件と多く、男性では30～34歳に5件と多く見られています。地区別は、熊本32件と圧倒的に多く、次いで八代11件、御船4件、有明、宇城に各3件、菊池、天草に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症:
報告数 13件(前月比 0. 6、前年同月比0. 7)で、前月比、前年同月比ともに減少しています。男女別は、女性が9件と多く見られています。年齢別は、女性は20～54歳、男性も20～64歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が9件と圧倒的に多く、次いで菊池、御船、人吉、宇城に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ: 報告数は7件(前月比 1. 0、前年同月比1. 2)で、前月比は同数、前年同月比は増加しています。男女別は、男性が5件と多く見られています。年齢別は、男性は20～24歳に3件と多く、女性は15～19歳、25～29歳に各1件見られています。地区別は、熊本5件、御船、宇城に各1件でした。
4. 淋菌感染症: 報告数は9件(前月比0. 6、前年同月比0. 9)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は男性に5件とやや多く見られています。年齢別は、男性は25～29歳に3件と多く見られ、女性は20～44歳に見られています。地区別は、熊本4件、宇城2件、菊池、御船、八代に各1件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数0件(前月比±0、前年同月比±0)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数1件(前月比1.0、前年同月比0.3)でした。昨年8、9月をピークに減少しています。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数4件(前月比+4、前年同月比0.5)でした。場所は天草保健所が4件でした。
4. クラミジア肺炎: 報告数1件(前月比+1、前年同月比0.5)でした。
5. 感染性胃腸炎:
(ロタウイルス) 報告数1件(前月比+1、前年同月比-)でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:
報告数28件(前月比1.0、前年同月比1.6)でした。昨冬より多く、注意が必要です。熊本、山鹿の順に多く見られます。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:
報告数9件(前月比2.3、前年同月比3.0)でした。この1年で最高の数です。今後の推移に注意が必要です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:
報告数0件(前月比±0、前年同月比±0)でした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:
報告数0件(前月比±0、前年同月比±0)でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核: 25件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症: 4件
- 4類感染症: 日本紅斑熱: 3件
レジオネラ症: 1件
つつが虫病: 8件
- 5類感染症: 侵襲性肺炎球菌感染症: 1件